

2023年度 学校経営方針

町田市立南第一小学校
校長 安東 深雪

小学校教育の役割は、全ての児童が未来への希望を抱いて、力の伸ばせる教育を推進していくことである。学校で学んだことが児童の「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながっていくことを願い、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動する力を全ての児童に育成していくために、日々の教育活動が実践されていかななくてはならない。そのために町田市の教育振興基本計画である「町田市教育プラン2019-2023」を具現化し、本校の全教職員で本校の全ての児童を育てていくという強い意思のもと、計画的・向上的に日々の教育活動を学校組織全体で推進する。

また、急速に変化をする社会の状況や予測困難な自然災害や様々な災害、教育活動上の様々な課題に対して迅速かつ適切に、そして前例にとられない柔軟な対応力をもった学校を築き、児童一人一人に寄り添い、健やかな成長を図る教育を保護者・地域とともに推進していく。

1 本校の教育目標

多様な人との協働的なかかわりを通して、自分のよさを創造的に生かし自らの生活をよりよく切り拓く態度の涵養と、主体性や自律心を備え予測困難な社会を逞しく生き抜く児童の育成を図る。

- 深く考える子ども・・・自分で学ぶ みんなで学ぶ
- 粘り強い子ども・・・なりたい自分をめざしてやり抜く
- 助け合う子ども・・・違いを認める 力を合わせる
- 元気な子ども・・・望ましい運動習慣 生活習慣

2 目指す学校像

将来への希望を抱いて 高め合える学校

全ての児童が将来への希望を抱いて、その力を伸ばせる教育を推進し、
本校に関わる全ての人々が互いを認め合い、自己の価値を見出し、
高め合える学校

- 児童・・・自己肯定感を高め、目標をもって自分を向上させようとする児童を育成できる学校
- 教職員・・・職務にやりがいを持ち、目標をもって自分を向上させながら児童の指導ができる学校
- 保護者・地域・・・児童の育成に同じ願いを持ち、協働することで児童の成長を共有できる学校

3 学校経営の基本方針

目指す学校像の実現に向けて、以下の4点を経営の柱とする。

- (1)【あ】安心安全な教育環境の構築
- (2)【つ】強い心と体の育成
- (3)【た】たくさんの人とものとのかかわる教育活動の推進
- (4)【か】学力の確かな伸長を図る

(1) 安心安全な教育環境の構築～全ての児童の命が守られ、笑顔あふれる学校環境

児童が学校での教育活動を通して健やかに成長していくために、その学校が児童にとって安心できる場所であることは、最重要条件である。安心できる場所とは、全ての児童が心身ともに傷付けられることの無いように、互いの人権が守られ、施設・設備が整えられている場所である。そうした学校環境を構築することで、全ての児童の命が守られ、笑顔があふれる学校にしていく。

①いじめを生まない環境を構築する。

- ・児童一人ひとりへの適切な観察。毎月の「心のアンケート」を活用した早期発見、早期対応。
- ・「南一小いじめ防止基本方針」による適切な対応および、児童の実践力を全教育活動で指導。
- ・スクールカウンセラーと連携した、組織的な教育相談機能及び相談体制の充実。

②人権に配慮した教育活動を徹底し、教職員および児童の人権感覚の向上を図る。

- ・「人権教育 年間指導計画」に則った指導を通して、各人権課題についての理解の深化。
- ・人権教育推進担当教員による研修を実施を通じた教職員の人権感覚及び指導力の向上。
- ・教職員間の連携を図り、体罰ゼロの適切な指導の推進。

③安全教育の徹底を図る。

- ・「安全教育プログラム」を活用した安全指導を毎月行い、児童の安全に関する実践力を育成。
- ・月1回避難訓練を実施し、災害等非常時に適切な避難行動が取れる力を育成。
- ・町田警察や地域、保護者と連携したセーフティ教室、交通安全指導の実施。
- ・2月17日の「いのちの日」における命の尊さと交通安全についての集会、道徳授業の実施。

④生活ルールを徹底し、教職員が同じ判断基準で指導にあたる。

- ・学校生活のルール「南一小のせいかつ」を全教職員が共有し、児童への公平な指導。
- ・各学年の発達段階や、TPOに応じた言葉遣いの指導と、「あいさつ」の習慣化。
- ・SNS東京ルール及びSNS学校ルールを家庭と共有し、安心安全な情報活用能力の育成。

⑤校内環境の整備と美化に努める。

- ・毎月の安全点検を徹底し、危険個所の速やかな改修、修繕。
- ・児童の教育活動に望ましい備品の整備の推進。

(2) 強い心と身体の育成～児童が毎朝元気に登校する学校～

価値観の多様性や急速な社会変化を前向きに受け止め、自分らしく生きるためには、しなやかかつたくましい心の育成が不可欠である。学校という児童にとっての身近な社会集団での他者と関わりや様々な経験を通して、豊かな心の育成を図っていく。また、ライフスタイルの多様化の中で児童が望ましい生活習慣を身に付け、生涯にわたって健康な体を維持していくことができるように、学校生活を通して正しい知識や運動習慣を育成する。

①自己肯定感を伸長する。

- ・正しく児童を理解し、確かな価値付けと一人一人の個性やよさを認めてほめる指導の推進。
- ・特別活動、学校行事での児童の自治活動を通して、主体的な取組経験、成功体験の積み上げ。
- ・全教育活動におけるキャリア教育「夢4」の育成を通して、自己を高める力を育成。

②道徳的な判断力と実践力を育成する。

- ・「特別の教科 道徳」で学んだ道徳的価値観を、実践する態度を育成する指導。
- ・道徳教育推進教師を中心に、考え・議論する「特別の教科 道徳」の授業の推進。

・児童や家庭・地域の実態に即した道徳授業地区公開講座を通し、学校・家庭・地域が連携した道徳心の育成。

③生涯スポーツへとつながる運動習慣の育成し、楽しく運動する機会を充実させる。

- ・体育授業における児童の1単位時間当たりの運動量の保障。
- ・学び合い、考える体育授業を通し、他者と関わりながら運動する楽しさの経験。
- ・体育集会や運動能力向上キャンペーンを活用し、一校一取組及び一学級一実践の充実・推進。

④家庭と連携し望ましい生活習慣を育成する。

- ・細やかな情報発信による児童の健康状況や生活習慣の実態について改善に向けた取組の共有。
- ・関係機関や専門家と連携した喫煙防止教室、薬物乱用防止教室や食育指導等の健康教育を推進
- ・「元気もりもりウィーク」により、家庭と連携して日常の生活習慣を見直しと、児童自らの実践力を育成。

(3) たくさんの人ともものとかかわる教育活動の推進

児童は、たくさんの人とかかわったり、多様な経験を重ねたりすることでたくましく生きることができる力を培っていく。学校は、多くの人や物事とかかわることができる環境を有している。地域学校協働本部を効果的に機能させた教育活動を推進することで、児童が、地域を大切にしながら、多様な他者の考えや立場を理解し、自分の良さや可能性に気付き、未来に夢をもって学ぶ児童を育成する。また、キャリア教育の視点をふまえた教育活動を推進し、多様な人とかかわりから生き方を考える児童を育成する。

①縦割り班活動や異学年連携学習による他者理解、社会性の育成。

②所属意識・自尊感情を高める特別活動や学校行事等の教育活動を実行。

③小中一貫活動や保幼小連携活動等の異校種交流、異年齢者交流の充実。

④地域教材を開発し、地域活動の工夫と充実を推進。

⑤V C、地域学校協働本部と連携した地域人材や外部人材の積極的活用。

⑥インクルーシブ教育の概念に基づいた教育活動を推進し、相互理解、学び合いの態度の育成。

⑦特別支援コーディネーターを中心に特別支援教室巡回教員や特別支援教室専門員と連携し、特別支援教育への理解、指導力の向上。

⑧教育活動の積極的公開、細やかな情報発信による、保護者・地域との連携。

⑨創立150年関連行事を通して、地域・同窓生との連携し、南一小への思いの共有。

(4) 学力の確かな伸長を図る

学校の教育活動においてすべての児童に確かな学力を身に付けさせることは最も重要な課題である。確かな学力の定着は、変化の激しい社会において児童が自ら考え判断しながら生きるための力となり、児童の将来への可能性を広げる。全ての児童の学力を培い、伸長していくことで、自分に自信と誇りをもって生きることができる児童を育成する。

①授業をデザインする4つの重点およびユニバーサルデザインの視点での授業改善の徹底。

②スモールステップ評価による児童へ達成感・学習意欲の伸長。

③タブレット端末・ICT機器の活用や教材・教具の工夫による学びの個別化。

④家庭学習の工夫・徹底、モジュール学習による基礎学力（読み書き計算）の反復学習の徹底。

- ⑤伝え合い、聞き合う「学び合い」の授業を通じた児童のコミュニケーション能力の育成。
- ⑥校内の図書環境を整え、全ての児童が読みかけの本を携える読書習慣の定着。
- ⑦既習の学びを新たな学習に生かす教科等横断的な学習の推進。

(5) 日々の教育活動を確かなものにするために

公立学校としての役割を果たし、保護者・地域と連携して子供たちを健やかに育成するためには、学校に関わる全ての人からの教職員への信頼が不可欠である。そのために、教育公務員としての教職員の資質向上に日々尽力していく。

①教職員が互いに学び合い、指導力を向上させる職場環境

- ・自己の課題に応じた校内OJT研修の充実。
- ・自己申告授業観察時の全教員の相互授業参観による授業力の向上。
- ・小教研や外部研修等で学んだことを校内伝達研修、校内共有。
- ・2022・2023年度町田市研究推進校として、「豊かに生きる力の育成」を目指し、キャリア教育を核とした研究の深化。

②サービスを遵守し、社会人としての言動に自覚をもち職務を遂行していく。

- ・サービス事故防止研修での具体的な事例研修、日常的な自己点検・他者点検。
- ・教育のプロとして、常に研鑽を積み、児童・保護者の多様性に対応できる力。
- ・豊かな人間性をもち、常に児童に寄り添い、児童を最優先できる心。
- ・社会情勢にアンテナを張り、人としての器を大きくもつ。
- ・時と場に応じた適切な身なりや言葉遣いの徹底。

③ライフ・ワーク・バランスの推進

- ・適切な校務改善を推進し、最小の時間で最大の成果を意識した職務遂行。
- ・起案システムの徹底による、時間厳守の会議を徹底。
- ・校務支援システムや情報管理を効果的に活用し、ペーパーレス化や業務の効率化。
- ・年次有給休暇の積極的取得や各種休暇制度の積極的に取得。
- ・電子出退勤記録をもとに月の勤務時間の管理し、長時間勤務の改善。
- ・認め合い、支え合える学校組織を構築し、全教職員の心身の健康が守られる職場環境の構築。